

皆様

今回のサンダーソニアの話は、新型コロナ禍で息苦しい生活に変化をつけたいという思いのほかに、
実は全く想定外の話がありますのでご報告しておきます。

今回皆さんのお手元に届いたサンダーソニアの球根・マールは、実はネパールのソルクンブ郡、山間地のみなさん（女性、こどもたちなど）の手で栽培されたものです。

2015年4月に発生したネパール大地震で大きな被害をもたらした、ネパールの山間部の主たる収入源であった登山ガイド・ポーターの収入が途絶えました。かねてヒマラヤ登山を通じて懇意だったソルクンブ郡の登山ガイドから千葉工業大学山岳部OB／OG会（CITACOB）に救援要請があり、在日ネパール大使館、公社・日本ネパール協会、JICA 東京を中心にCITACOBが支援事業として山間部の農村を中心にした事業を計画・進めています。詳細はここでは書ききれませんが相当なご苦労があり、今ではサンダーソニア球根栽培が少しずつ進んでいるようです。

そんな中、このマールを日本でも個人で楽しめないものかと関係者の一人・CITACOBの神長氏から相談があり、イロイロ調べました。そして育種家の奥 隆善先生にアドバイスを頂きました。結果、日本でのサンダーソニアブームは既に終わって

いて、鉢植えは難しいのではないかと、その思いになりました。サカタのタネの『園芸通信』は冊子としての歴史も長く、僕自身が携わったNHKテキスト『趣味の園芸』の創刊時にはもう既に園芸誌として存在していました。その『園芸通信』も時の流れに逆らえずネットでの情報発信が始まっており、その中にアマチュア向けの「サンダーソニアの球根の植え付け」を見つけました。更なる情報収集をと、そのページの監修者を探しましたが20年前にもう既に退職されており、個人情報がない、でなかなか監修者・坂本忠一氏に辿り着く事が出来ませんでした。やっと、先日、直接電話でのお話ができ「マーブルでの鉢花づくりは出来る」と伺い、今回の皆さんへのテスト栽培になりました。しかし未経験の僕は皆さんと同時に栽培記録を付けなければいけない状況で、皆さんにはご苦勞をお掛けする事になりますがご賢察いただければ嬉しいです。

坂本先生はユリの球根研究者で、ご自身でも退職後から去年までサンダーソニアの鉢植えを毎年楽しんでいて、とのことですから何とも力強いお話しではありませんか。その時、「梅雨の前に花を咲かせなさい」と何度もおっしゃっていた言葉が印象的でしたが、僕はまだその意味を100%理解出来ていません。何とかマーブルを枯らさないで、可愛い黄色の釣り鐘状の花を、サンダーソニアの鉢花を咲かせましょう。

そして、遠くネパールのソルクンブ郡、山間地の栽培農家の裨益になれば嬉しいな、。